中の島地区連合町内会ニュース

第24号

発　　行：中の島地区町内会連合会
発行日：平成　21年2月23日

中の島アイスキャンドル大作戦2009、札幌雪まつりも終わり、身近で開催された冬のイベントも一段落致しました。沖縄・九州などの南の地方では、桜の開花予想が発表された地域もあり、春の足音が真近に聞こえる季節になってきましたが、北海道はまだまだ寒さ厳しい時期です。
町内の皆様には風邪を召さぬよう体調に気を付けて下さい。

中の島アイスキャンドル大作戦2009

（環状通り）

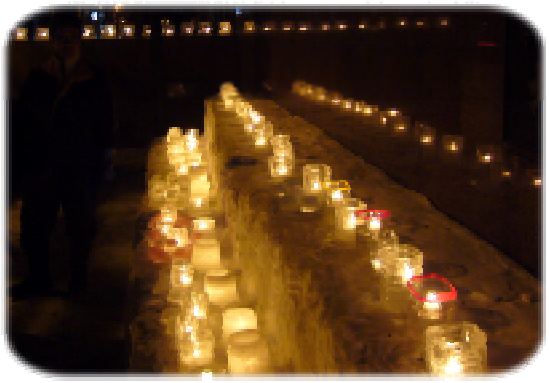
1月26日（月）17時に中の島の各地区でｱｲｽｷｬﾝﾄﾞﾙが一斉に点灯され、28日（水）までの三日間に亘り“中の島魅力ある地域づくりの会”主催による“中の島アイスキャンドル大作戦2009”が開催されました。

1月に入り、例年に無い暖冬が続いたことから、主催者及び関係者は“キャンドル制作が思うように進まず、イベント開催が可能かどうか？”と憂慮しましたが、期間中は、雪も降らず、また風も穏やかで無事に終了することが出来ました。

（まちづくりセンター前）

今回は、昨年に引続き2回目の開催で、会場数やキャンドル数も増加し、町内の皆様はもとより通りすがりの通勤者など大勢の方々にご覧頂けたものと思います。
“中の島魅力ある地域づくりの会”が名称変更後の最初の事業で、将来　中の島の冬の一大イベントとして毎年開催され、規模も大きく成長するように願っております。

（中の島郵便局前）



（尚志学園高等学校前）

（９丁目・１０丁目）

中の島の入植した人たち

〇1882 年（明治 15 年）　野月さんが、今の 1 条 4 丁目あたりに入植しました。
〇1887 年（明治 20 年）　新潟県から早川さん、岩手県から有原さんが、入植しました。
〇1897 年（明治 30 年）　苗穂から谷さんが、入植しぶどうを植えました。
〇1907 年（明治 40 年）　石川県から石田さんが、入植しました。
〇1913 年（大正 2 年）　札幌の吉田眼科医が、ぶどう園をはじめました。
〇1919 年（大正 8 年）　石田さんほか数人が、りんごの栽培に力を入れました。
〇1927 年（昭和 2 年）　河井才一郎さんが、吉田さんからぶどう園をふくむ土地（今の中の島一区全部）を買いました。

中河原時代に入植した人たちの家は、大変粗末なつくりで、中にはかべや、屋根は熊笹で作り、床は柳の木で組み合わせてつくったものもありました。

土間で火をたき月夜には、薄暗い月明かりをたよりに遅くまで石をひろい、畑をつくったこともありました。大豆や、あずきは質が良いので、高い値段で売れましたが、大根に虫がついて困ったことや、よく売れない作物もありました。

明治 41 年ごろ、今の生活協同組合から精進川あたりまでの所で牛を飼っていました。広い牧場をつくろうとはじめたのですが、土地が狭く、石や砂が多くて牧草が育たないやせた土地だったことと、水害などの心配もあってやめてしまいました。冬になると、道がなく雪の降った日は親たち道しるべに棒をさしておいたのをたよりに、吹雪の中を腰までの雪を泳ぐようにして歩いたといわれます。入植した人々は、厳しい自然とのたたかいの中で、大変苦労しましたがだんだん開拓されていきました。

明治・大正時代は、今の一区はぶどう園、二区はりんご園とやさい畑、穀類でりんごの栽培が主でした。三区は、土地が悪く耕地がなく、あちこちに砂利の採取場所がありました。

昭和 6 年の洪水のため、初めの幌平橋が流され昭和 8 年に第二回目の幌平橋がかけられました。この時今の「中の島通り」ができました。

このころ、三区に長谷川商店が、砂利採取場所で働く人たちのために開店しました。その後、しばらく人が住んでいませんでしたが、昭和 18 年に大塚さんが病院を開業するためにはいりました。そして、真駒内に通じる道路ができた昭和 20 年ごろから急に人家が増えました。昭和 36 年に、豊平町が札幌市に合わせられたことによって、今のように札幌市の一部として大きく変わってきたのです。

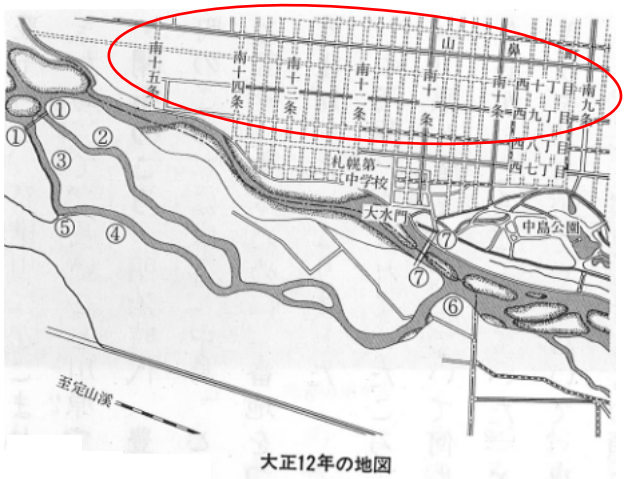
「郷土誌　なかのしま」より抜粋

問合わせ先　中の島まちづくりセンター　中の島１条４丁目９－４　TEL821－5841

《 お 詫 び 》

先月発行（第 23 号）の町内会ニュースに掲載いたしました「中の島の開拓のころ」の地図に記載されている南９条から南１５条までの表記に誤まりがありました。
（幌平橋は南 11 条近辺で表示されているが南 14 条近辺である。）

別な大正時代の地図と照合しましたが、正確に条を調べることができませんでしたので、ご了承下さい。



大正12年の地図